



TITLE:

血圧降下性物質の研究. 第1報 エタノールアミン類の血圧降下性に就て

AUTHOR(S):

土岐, 正雄

CITATION:

土岐, 正雄. 血圧降下性物質の研究. 第1報 エタノールアミン類の血圧降下性に就て. 化学研究所講演集 1934, 4: 60-68

ISSUE DATE:

1934-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/73546>

RIGHT:

血 壓 降 下 性 物 質 の 研 究*

第 1 報 エタノールアミン類の 血 壓 降 下 性 に 就 て

研 究 員 土 岐 正 雄

緒 言

Amine 類中には 激しき生理作用を有するもの多し。寧ろ激しき生理作用を有する物質の大部分は 何等かの形に於て Amine 類に屬すと言ふも過當ならず。

Amine 類中 N に附着せる Alkyl が Alcohol 性の OH を有するもの、即ち Alcoholamine と名付くべき一群の物質あり。この種の構造は 生化學的に重要な物質の分子構造の一部として 屢見出さるゝところにして 特に 所謂類脂肪體中の鹽基は 殆ど全部 この種の構造を有する事實は著者の興味を喚起せり。

本報に於ては 單純なる Alcoholamine 中最も得易きものとして Ethylalcohol を有するもの 即ち 第 1 級、第 2 級 及び 第 3 級の 3 種の Ethanolamine に就て 其 家兎の血 壓 に 及 ぼ す 作 用 を 報 告 せ ん と す。

血 壓 測 定 法

特に明記せるものゝ外は 倉矢氏法** 即ち 家兎の耳殻動脈に於てするところの非觀血的測定法に依れり。本法は吾人の經驗に依れば 熟練すれば毎回の測定（連續 10 回の測定値を平均す）誤差は 約 $\pm 0.2\%$ なるも 測定者に依る固有偏差は 無視し得べからざる値を示す。故に 本研究に於ては 全部該動物の正常血 壓 値 に 對 する 百 分 率 を 以て 血 壓 曲 線 を 描 け り。又 以て多數の曲線を比較する場合 常に 該動物の正常値を念頭に置くの煩を避け得べし。

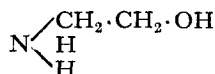
A. Ethanolamine 類の家兎の血 壓 に 及 ぼ す 影 響

1. Monoethanolamine (Aminoethylalcohol)

* 土岐、三善、上田：一酵母中に於ける血 壓 降 下 性 物 質 の 存 在 に 就 て 農 化。Vol. 9 No. 6.

土岐、三善：一酵母 ヌクレイン酸の血 壓 降 下 作 用 に 就 て 農 化。Vol. 9 No. 7.

** 倉矢：一京都帝大醫學部紀要 Vol. 6 No. 3.

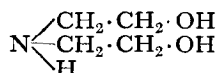


無色油状の物質にして 特有の臭氣あり. 空氣中の CO_2 を吸収し 又 弱き皮膚を多少腐蝕する程度の アルカリ性を有す. 自然界にありては Kephalin の鹽基として 汎く分布す.

研究に用ひたる試料は 米國 Carbide & Chemicals の製造に係る 工業用 Triethanolamine を再三分餾し 不純物として混在せる本物質を集め 更に 鹽酸鹽として精製し 再び 遊離せしめたるものにして 總窒素と Amino 窒素との差は 實驗誤差範圍内にあり.

このものを 反應を修正する目的を以て鹽酸鹽とし 家兎に與ふれば 其 投與法の靜脈内注射, 皮下注射 又は經口投與 の何れの場合にも 明かに血壓を降下せしむ. (第 1 圖 A)

2. Diethanolamine

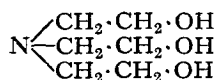


全く純粹なるものは M. P. 28°C なる無色の結晶なるも 極微量の不純物の爲に 常溫に於ては 油状をなす場合多し. 可成のアルカリ性を有し CO_2 を吸収し 弱き皮膚を腐蝕す. このものが 1 分子の H_2O を失ひ 分子内エーテル となりしものが 所謂 Morpholin なり.

研究に用ひたる試料は 前記 工業用 Triethanolamine より分餾により Monoethanolamine を除きたるものを 減壓の下に再三分餾し 最後に 約 150 mm に於て $210-220^\circ\text{C}$ の餾分を集めたるものにして Picrate 及び Picrolonate の 融點は 其 純粹なるを示す.

このものも同じく 鹽酸鹽とし 反應を修正し 家兎に與ふれば 投與法の如何に不拘 明かに血壓降下す. (第 1 圖 B)

3. Triethanolamine



淡黄色油状の物質にして 可成のアルカリ性あり。CO₂ を吸収し 弱き皮膚を 腐蝕す。鹽酸鹽は 甚だ結晶し易く 精製容易なり。研究に用ひたる試料は 前記の 工業用 Triethanolamine を HCl-salt として 再三再結し 固有の融點に到らしめたるものなり。

このものを鹽酸鹽として 家兎に與ふれば 投與法の如何に不拘 明かに血壓降下す。(第 1 圖 C)

4. 三種の Ethanolamine の比較

a. 血 壓 降 下 性 (第 1 圖)

第 1 圖は上記 3 種の Ethanolamine 鹽酸鹽を 水溶液として 家兎に靜脈内注射、皮下注射 及び 經口投與の 3 法を以て與へて 其 末梢血壓の變化を測定したる例にして 投與量はすべて 家兎の體重 1 kg 當り $\frac{1}{10,000}$ mol. なり。勿論 更に 多量を與ふれば 血壓の降下は 更に 著しきも その曲線は 之を省略す。

第 1 圖を通覽するに 何れも明かに血壓降下作用を有し 動物試験なるものゝ本來の性質上 其 強度は大差なしと判斷するを至當と信ず。

これ等 3 種に對應する單純なる Monoethylamine, Diethylamine 及び Triethylamine は案外無力なる物質にして 鹽酸鹽として動物に注射すれば 大量にて初めて輕度の麻痺作用を現すに過ぎず、尠くも $\frac{1}{1,000}$ mol. 臺にては 殆ど 血壓に影響を及ぼさざるは興味ある事實なり。

b. 毒 性

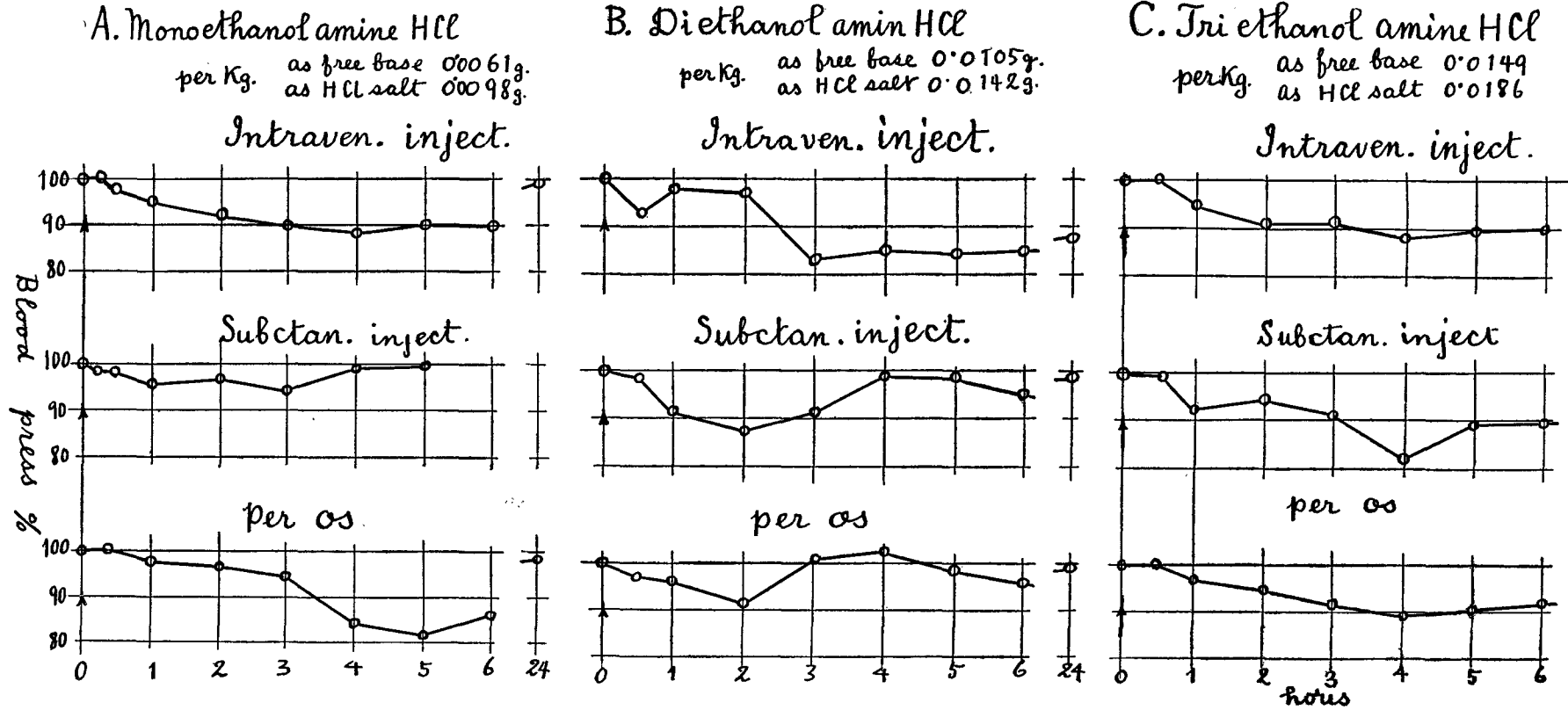
3 種の Ethanolamine の HCl salt の水溶液を 廿日鼠の皮下に 注射したる場合の最少致死量は 實驗の季節 動物の年齢等により 可成の開きあり。次に示すは 其 1 例なり。

	per kg. mol.	per kg. 絶對量
Monoethanolamine HCl	0.067	5.5 gr.
Diethanolamine HCl	0.042	5.9 gr.
Triethanolamine HCl	0.040	7.5 gr.

實に膨大なる致死量と謂ふべく、かゝる大量を 1 時に 直接體內に 輸入したる場合

第1圖 三種の Ethanolamine HCl の家兎 末梢血壓に及ぼす影響

投與量 per kg. $\frac{1}{10,000}$ mol.



には 其 物質固有の作用以外に 体内物質間の 平衡状態の攪亂を 考ふる必要あるべし。致死量決定が 明確なる値を得ざるも故なしとせず。

即ち 3 種の Ethanolamine HCl の毒性の大小は 之を論ずる價值なく 等しく 極めて無毒なる物質なるを知るを以て足れりとせん。

c. 實 用 性

上記の如く この 3 種は血 壓 及び 毒性に關する限り 根本的の差は認め得ざるも mono 及び di は 之を 特に 製造せんとせば 可成困難なり。しかるに Triethanolamine は NH_3 に普通の條件下にて $-\text{CH}_2-\text{CH}_2\text{OH}$ を附加する場合の 最終産物にして 製造 比較的容易なる如し。又 近年血 壓 とは全く無關係なる 工業的用途 (乳化劑 及び 所謂 Wettening agent 等) 注目せられ 主として 米國に於て 工業的製造開始せられ 粗製品は 之を 市場に得ること容易なると共に 其 鹽酸鹽が 甚だ結晶し易きことは 精製上甚だ有利なり。

以上を通覽して Triethanolamine が 最優秀なる性質を具足するを以て 特に この物質に就て 稍、詳細に報告せんとす。

B. Triethanolamine HCl の血 壓 降 下 性

1. 投與量と作用の強度

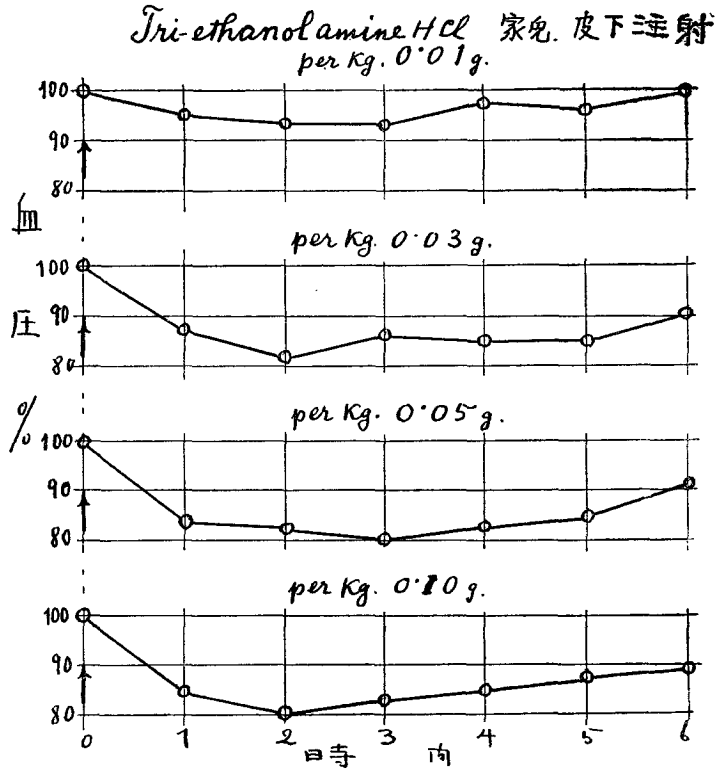
投與量を増加すれば 漸次 作用増大するは勿論なれども 投與量と共に 無制限に増大するものに非ざることは 第 2 圖に示す如し。この事實は 前記膨大なる致死量と共に 注目すべき性質なり。

2. 長期連續投與

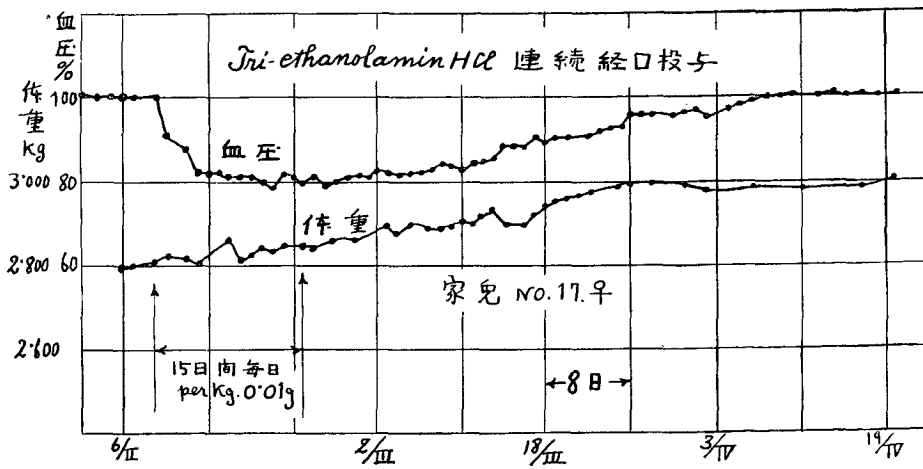
家兎に連日投與すれば 血 壓 は 漸次低下し 數日にして平衡状態に達し 投與中止後も 長時日に亘つて 後作用を持続す。

第 4 圖は 皮下注射 及び 經口投與の各 1 例なり。毎日 1 定時刻に試料を投與し 翌日 同時刻に血 壓 を測定したるものにして 曲線上の値は 投與 24 時間後の血 壓 を示す。この期間中 體重減少等 忌むべき副作用を認めず。

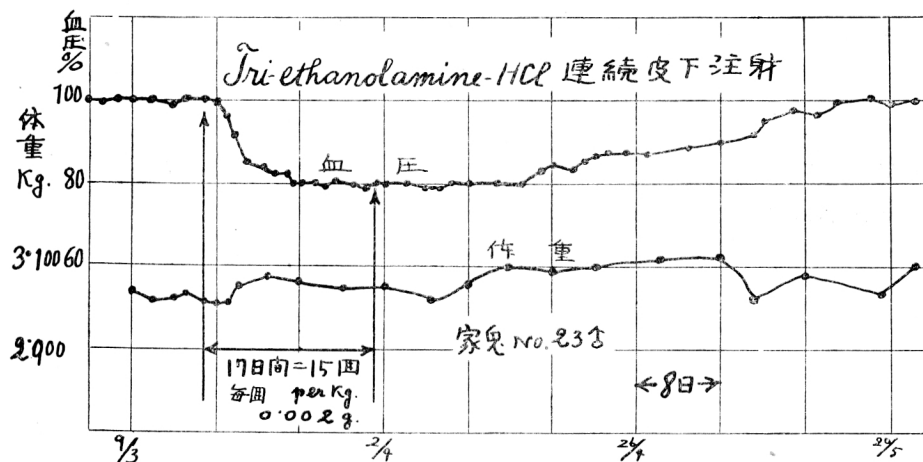
第 2 圖



第 3 圖 (A)



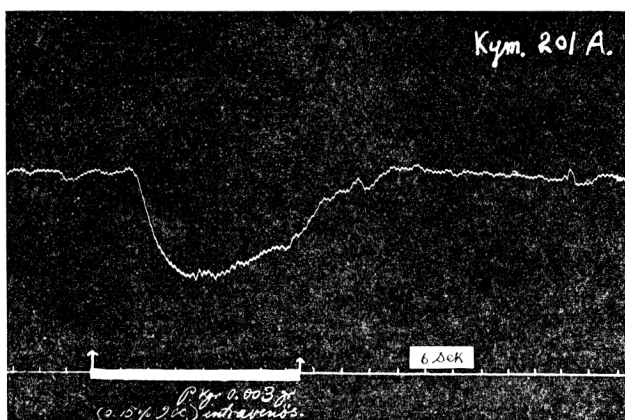
第 3 圖 (B)



3. 頸動脈血圧に及ぼす作用

上記はすべて耳殻動脈血圧(末梢)に及ぼす作用なるが、家兎に per kg. 0.003gr. を水溶液として静脈内に注射し、常法に依り頸動脈血圧をキモグラフィオン煤紙上に描寫せしめたる記録を第4圖に示す。即ち、心臓の強大なる搏出力を直接受くる頸動脈に於ては、本物質の作用は一過性の血圧降下として現はるゝに過ぎざるを知る。

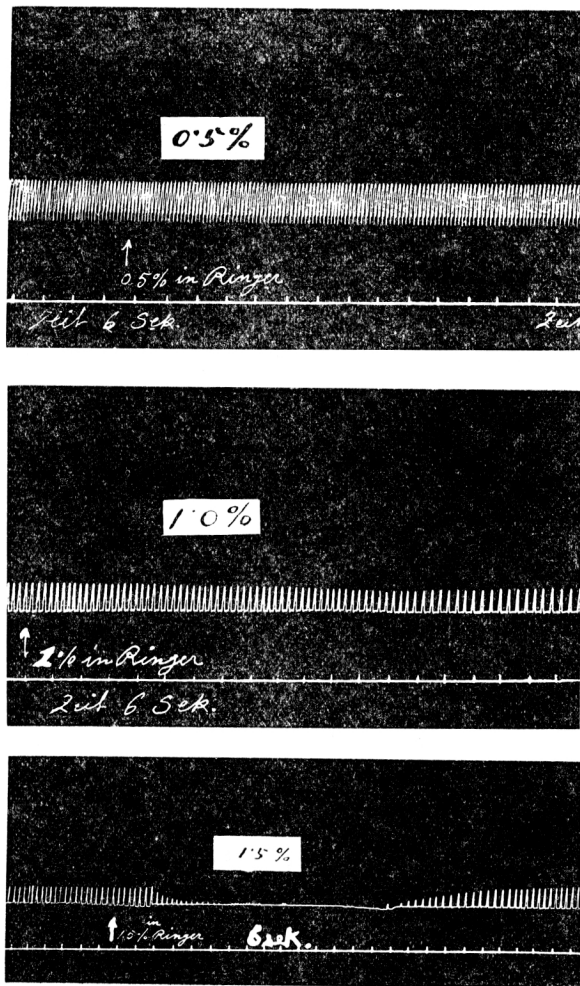
第4圖 Triethanolamine HCl 静脈内注射 頸動脈血圧

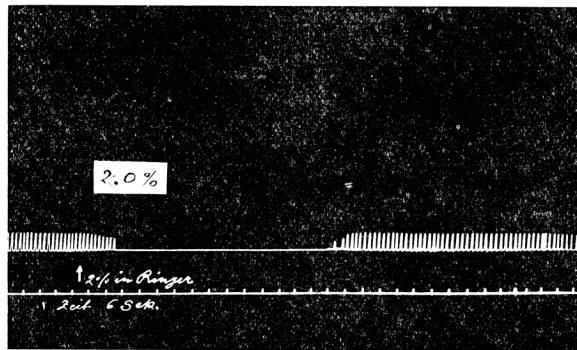


4. 心臓に対する作用

金線蛙 摘出心臓を 種々の濃度の Triethanolamine HCl を含む Ringer 氏液にて灌流せる記録を 第5圖に示す. 1%の 高濃度に於ても 僅かに 影響あるのみにして 1.5%以上にあつても 一時は停止するも 少時にして 自然に恢復するを見るべし. 即ち 本物質は 心臓に對する 毒性 甚だ少にして 血壓降下が 心臓の衰弱に起因するものに非ざるを想像せしむ.

第5圖 Triethanolamine HCl 金線蛙 摘出心臓

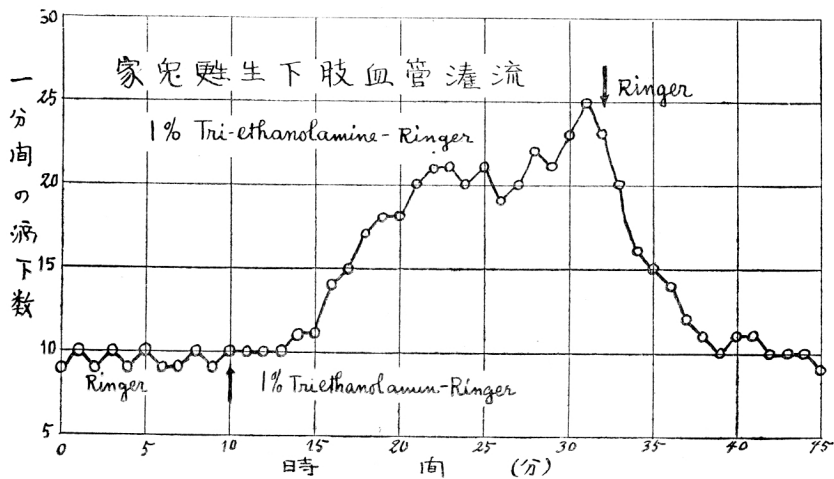




5. 末梢血管に及ぼす作用

常法に依り家兎臍生耳殻血管に就て 灌流試験を行ひし結果を 第6圖に示す。即ち屠殺後 直に 氷室内に一夜放置したる家兎の耳殻を 家兎の體温と等しき 恆温槽中に置き 其 動脈より恆壓を以て 同温度の Ringer 氏液を灌流し 靜脈より流出する液の 1 分間の滴下數一定せる後 等壓の 1% Triethanolamine HCl Ringer 氏液と置換するに 急に滴下數を増加し 2 倍以上に達し 再び Ringer 氏液に復すれば 急に減じ 舊滴數に復す。即ち Triethanolamine HCl は 末梢血管を擴張する作用あるを示し 其血壓降下性の作用機轉の説明に有力なる資料を與ふ。

第 6 圖



綜 括

1. Ethanolamine は prim. sec. 及び tert. の何れも 極めて無毒の物質にして 著しき血圧降下作用あり.
2. 三者中 Triethanolamine が 最も 優秀なる性質を具足す.

附 記

本研究に當り 終始御鞭撻を賜りたる 恩師 鈴木文助教授に 深甚なる感謝を捧ぐ.
動物試験は 藥劑師三善藤吉 同上田長雄兩氏の勞に依る. 特記して 謝意を表す.